

- 軌道ぞいのシダ採集記, 植物採集ニュース 3 64 : 70
7. 志村義雄, 1973, 長野県下における興味あるシダ植物 1), 長野植研 6 : 47-53
8. 杉本順一, 1966 (完), 長野県植物総目録, 長野林友
9. 高橋秀男・中村武久・平林国男, 1969, 白馬・後立山連峰とその東方山麓のフロラ, 神奈川博研報 1(3) : 1-83
10. 横内斎, 1971, 長野県の植物, 信教出版

11. 大塚孝一, 1973, 島々谷のシダ, 日本シダの会会報 2 64 : 10-11
12. 大塚孝一, 1974, 長野県上小地方のシダ植物
13. 大塚孝一, 1975, 信州の羊歯植物研究 I イノデ属, 長野植研 8 : 18-28
14. 大塚孝一, 1976, 信州の羊歯植物研究 II ミヤマシケシダ属, 長野植研 9 : 45-53
15. 大塚孝一, 1981, 信州の羊歯植物研究 III メシダ属, 長野植研 14 : 10-15

〔植物ニュース〕55. マルバノキ *Disanthus cercidifolius* Maxim.

1981年 9月10日, 南安曇郡穂高町の中房川の黒川沢 (850 m) で本種を発見採集した。

本種は長野・愛知・岐阜・福井・滋賀・広島・高知だけに分布しているマンサク科の一属一種の落葉低木である。本県では、木曽と下伊那地方に多く見られ、北限は塩尻市宗賀の釜之沢 (奥原先生が昭和44年に発見) であった。11月15日に横内文人氏らとともに確認のため再度黒川沢を訪れ、花のついた枝を採集した。当地のマルバノキは、山道沿いに数株が認められただけであるが、これにより本種の北限は釜之沢から約36 km北上したことになる。(堤久)

56. ハクウンラン *Vexillabium nakaianum* F. Maekawa

県内の記録として軽井沢町長倉国有林 (本誌 8 号) と同町小瀬温泉 (軽井沢の植物) が知られている。

1981年 8月23日, 御代田町追分が原のカラマツ植林地にて採集。30本程度生育していた。(土屋守)

57. フナコシイノデ *Polystichum × inadae* Kurata

1981年 8月19日, 飯山市小菅神社のスギ林下で採集。イワシロイノデと思って採ったが、国立科学博物館の中池先生にお見せしたところ, "サカゲイノデ (またはツヤナシイノデ) とイノデとの雑種フナコシイノデ" と同定していただいた。イワシロイノデに比し葉面に光沢があり、葉軸の鱗片が大形であり、イノデに比し葉は軟かく黄緑色で光沢にやや乏しい。長野県新産。(堤 久)

〔新刊紹介〕井波一雄「広島県植物図選 1」B 5 判, 図版 100 頁。昭和56年 6月20日博新館発行, 3000円。

本会の会員である名古屋市の井波さんが広島県産の植物 100 種を描いたもの。広島県東部は前川先生が「阿哲地区」を設定し、垂涎のものが山積している地区であると説かれている地方である。この書は広島県としても特別とみられる 100 種を選び精密に描いてあり生品をほうふつとさせるに充分で、楽しくページをめくることが出来る。例えばチョウセンヒメツゲは特徴とする若枝や葉柄の細毛まで描かれていて文献や写真でははっきりしない点も明解に知ることが出来、採集年月日・採集地・生育地の状況も付記されているので参考になる。

井波さんは既に名著「日本スミレ図譜」を著し、岐阜県の植物」のほか折々の雑誌にも植物画を載せて植物研究家・植物画家として、その才能は世に知られているが、氏はこの序文で「植物を為す者は須らく図を描くべしとの牧野富太郎の金言に支えられ寝食をも忘れて描き続けている」と述べているが、その情熱が才能を助けてこの名著となったもので、世は写真の時代であるのに氏があえて描画としたのは、このような才能と情熱があつてのことであろう。

本書は「図選 1」となっていて続刊もあるものと考えられ、それも待望される。希望者は送料 500 円を添え広島市中区三川町 9-6 博新館, 振替 (広島) 9301 番へ。(奥原)